



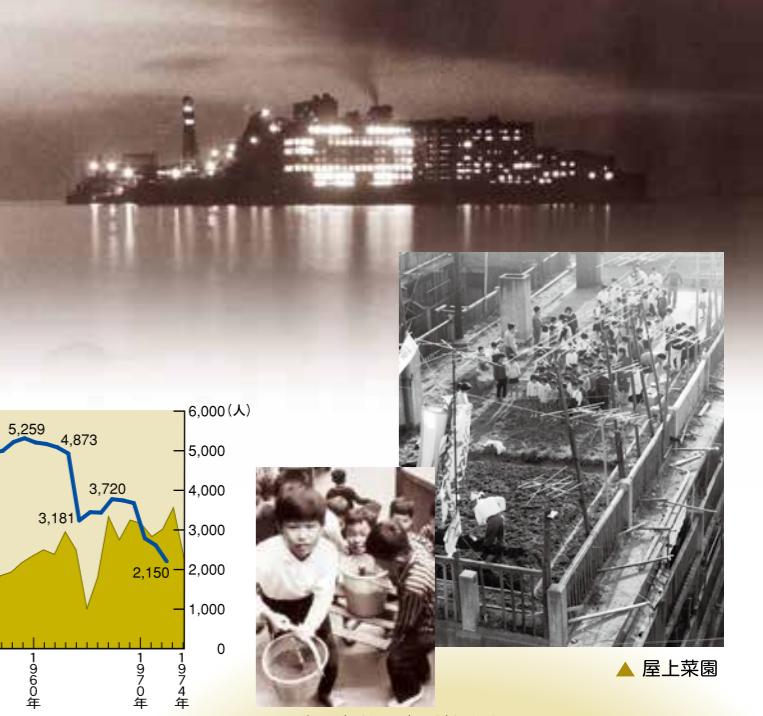
# GUNKANJIMA

## 端島の歴史

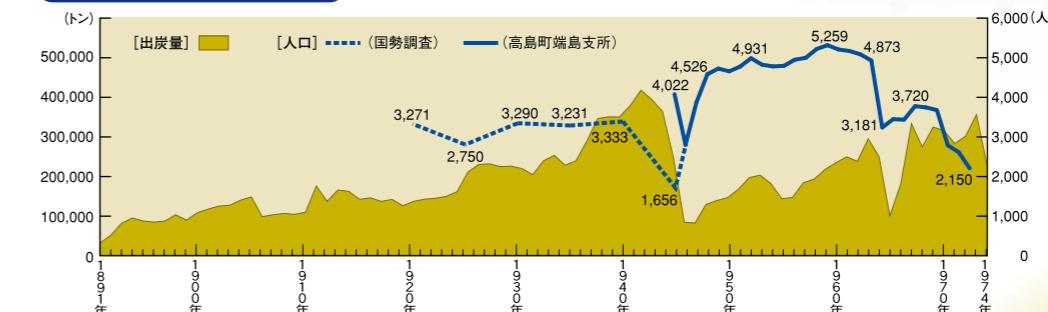
端島では、1810年頃に石炭が発見され、佐賀藩が小規模な採炭を行っていましたが、1890年三菱合資会社の経営となり、本格的海底炭坑として操業が開始されました。

出炭量が増加するにつれ人口も増加し、狭い島で多くの人が生活するため1916年には日本初の鉄筋コンクリート造の高層集合住宅が建設され、最盛期には約5,300人もの人々が住み、当時の東京都の9倍もの人口密度にまで達しました。

エネルギー革命により、エネルギーの需要が石炭から石油に移ったことで、出炭量も人口も徐々に減少し、1974年1月に閉山した後は、同年4月に無人島になりました。



## 島内人口と出炭量の年次変化



資料：三菱鉛業セメント株式会社「三菱鎮業社史」「高島炭礦史」、建築学会論文「軍艦島の生活環境(その2)」長崎造船大学(現 長崎総合科学大学)片寄俊秀教授



▲屋上に土を運ぶ子どもたち

## 上陸にあたっての注意事項

- 見学施設区域(見学広場・見学通路)以外の区域に立ち入らないでください。
  - 見学施設においては、次の行為をしないでください。
    - (1) 柵を乗り越えるなど危険な行為
    - (2) 施設を汚す行為
    - (3) 飲酒(船内を含む)
    - (4) 喫煙
    - (5) 他人の迷惑となる行為
  - 安全誘導員その他の係員の誘導・指示に従ってください。
  - 見学施設を安全に利用するのに適した衣服・靴を着用してください。
  - ごみは持ち帰ってください。
  - 未就学児童又は身体障害者等一人での歩行が困難な方には、保護者又は介助者が同行してください。
- \* 見学施設は、気象又は海象条件によって利用できないことがあります。  
利用できないときは、施設見学料はお返しします。
- \* 飲酒されている方は、危険防止のため見学施設の利用はできません。
- \* 小学校の児童については、保護者の承諾書が必要です。

## 施設見学科

\* 上陸に際しては、別途船代も必要となります。

	個人	団体(15人以上)
一般(12歳以上)	310円	250円
小学校の児童	150円	120円

## お問い合わせ

長崎市コールセンターあじさいコール  
TEL.095-822-8888

## 軍艦島を学ぶ

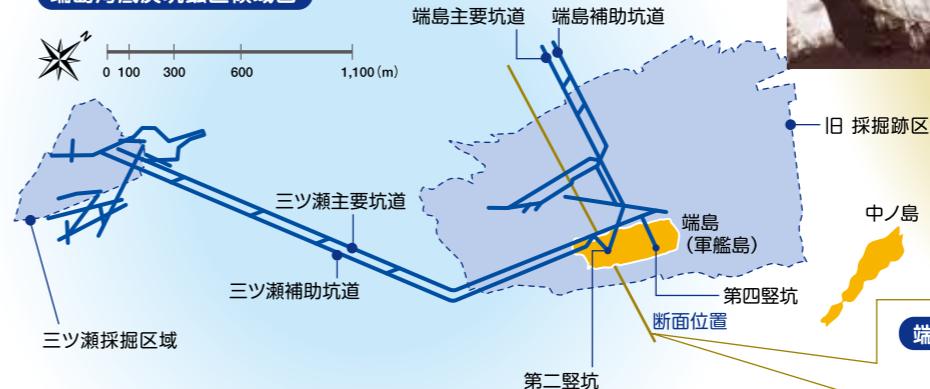
軍艦島資料館 TEL.095-893-1651  
高島石炭資料館 TEL.095-896-3110(長崎市高島地域センター)



## 炭坑の仕事

1891年から1974年の閉山まで約1,570万トンもの石炭を採掘した「ヤマの男」たち。海底炭鉱である端島での採掘作業は、海面下1,000m以上の地点にまで及びました。勾配はきつく、気温30℃、湿度95%という悪条件のもと、ガス爆発など常に危険と隣り合わせの仕事はとても過酷なものでした。鉱内で交わされる「ご安全に」という挨拶に、「絶対に事故を起さない」という気持ちが込められていました。

### 端島海底炭坑鉱区領域図



資料：鉱業所資料

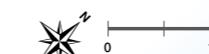


▲炭車による硬(ボタ)の搬出

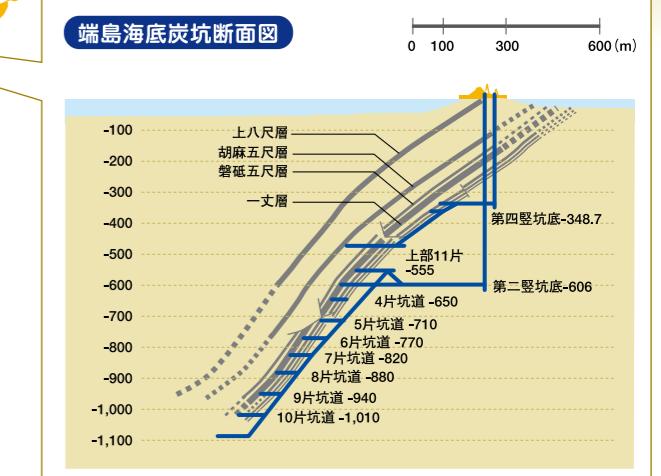
▼坑木を満載した枠台車を幹線軌道まで押していく。

## 島の拡張

当初、草木のない水成岩の瀬にすぎなかつたこの小さな島は、採掘技術の発達とともに、周りを6回にわたって埋め立てて形で護岸堤防の拡張を繰り返し、今日の島の形状になりました。もともとは現在の3分の1ほどの大きさだったといいます。



資料：鉱業所資料



資料：鉱業所資料



1910年頃

1959年頃

大波止物を立てるのに必要な工事。  
船底に立てるのに必要な工事。  
船底に立てるのに必要な工事。

船底に立てるのに必要な工事。  
船底に立てるのに必要な工事。  
船底に立てるのに必要な工事。  
船底に立てるのに必要な工事。  
船底に立てるのに必要な工事。  
船底に立てるのに必要な工事。  
船底に立てるのに必要な工事。  
船底に立てるのに必要な工事。

島の暮年

# 閉山時の建物の配置図

現在も約半数の建物が残っています。

■ 職員社宅 ■ 鉱員社宅 ■ 採炭関連施設 ■ その他建物

見学施設（見学広場・見学通路）  
※この区域以外に立ち入ることはできません。

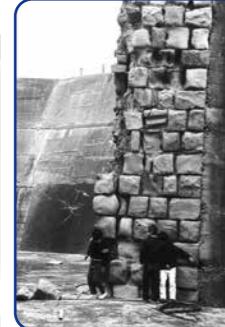


レンガ造りの第3堅抗捲座跡（資材倉庫）に隣接する総合事務所の中には、炭鉱マンのための大きな共同浴場があり、綺麗な浴槽に入る前に荒洗いを行っていた浴槽はいつも真っ黒だったそうです。この周辺には多くの建物がありましたが、現在ではそのほとんどが崩壊しています。

## 総合事務所

## 天川の護岸

明治期、島の拡張に伴う護岸づくりは、石灰と赤土を混ぜた天川（あまかわ）と呼ばれる接着剤を用いた石積み工法により盛んに行われました。この擁壁は現在でも島内の至る所に残っており、端島独特の景観を生み出しています。



## ライフライン

電気や水道の確保は、端島では切実な問題でした。電気は当初、島の自家発電で供給されていましたが、人口の増加などに伴い電力不足となつたため、1918（大正7）年に高島から海底ケーブルが敷かれ、送電されるようになりました。

また、飲料水も当初は海水を蒸留していましたが、のちに給水

船で運ばれるようになりました。高台にある貯水槽に蓄えられ、数か所の共同水栓から配給されるようになりました。風呂の水は海水を沸かしたもので、上がり湯だけしか真水を利用できませんでした。1957（昭和32）年には対岸の三和町から6,500メートルもの海底送水管が敷かれ、送水されるようになりました。これにより、端島での給水制限はなくなりましたが、高級職員用のアパートであった3号棟以外のアパートには室内風呂は設置されず、公衆浴場が利用されていました。

昭和30年代からプロパンガスが利用されました。それまではかまどを使っていましたが、アパートには煙突がありました。



南部プール落成水泳大会の様子。（昭和33年7月）南部プールが完成するまでは旧木造校舎の東端部分にありました。台風で大破したため移転建設されました。25メートルプールと幼児用プールが併設されました。海水を使っていました。65号棟屋上の幼稚園にもプールがありました。



1916（大正5）年に建てられた30号アパートは、日本最古の7階建て鉄筋コンクリート造の高層アパートといわれています。鉱員社宅として建設され、内庭には吹き抜けの廊下と階段があり、地下には売店もありました。31号棟鉱員社宅には、地階に一般用の共同浴場があり、1階には郵便局や理髪店も設置されています。

## 30号棟・31号棟アパート



精炭（精選された石炭）は、このベルトコンベアによって貯炭場に蓄えられ、石炭運搬船に積み込まれました。今はその支柱が残るのみです。



## 貯炭ベルトコンベア



精炭（精選された石炭）は、このベルトコンベアによって貯炭場に蓄えられ、石炭運搬船に積み込まれました。今はその支柱が残るのみです。



## 第二堅坑入坑桟橋跡

主力坑だった第二堅坑を含め、鉱山施設は、現在ほとんど崩壊していますが、かろうじて第二堅坑へ行くために設けられた桟橋への昇降階段部分が残っています。



## 端島神社

危険と隣り合わせの鉱員たちにとって、神社は心の拠り所であり、毎年4月3日の山神祭は全島を挙げて盛大に行われました。神殿の下に拝殿もありましたが、倒壊してしまい、現在は祠のみが残っています。



## 建物一覧表

建物名	建設年代	構造・階数	戸数	建設用途
1号	1936(昭和11)年	木造 1階	—	神社
2号	1950(昭和25)年	R C 造 3階	9	職員社宅
3号	1959(昭和34)年	R C 造 4階	20	職員社宅(幹部用・風呂付)
5号	1950(昭和25)年	木造 2階	1	砂長社宅
6号	1936(昭和11)年	木造 2階	—	職員単身寮
7号	1953(昭和28)年	木造 2階	—	職員クラブハウス
8号	1919(大正 8)年	R C 木造3階	4	共同浴場(1階)・職員社宅
12号	1925(大正14)以前	木造 3階	3	職員社宅
13号	1967(昭和42)年	R C 造 4階	12	町営住宅(教職員用)
14号	1941(昭和16)年	R C 造 5階	15	職員社宅(中央住宅)
16号	1918(大正 7)年	R C 造 9階	66	鉱員社宅
17号	1918(大正 7)年	R C 造 9階	54	鉱員社宅
18号	1918(大正 7)年	R C 造 9階	50	鉱員社宅
19号	1922(大正11)年	R C 造 9階	45	鉱員社宅
20号	1922(大正11)年	R C 造 7階	26	警察派出所(1階)・鉱員社宅
21号	1954(昭和29)年	R C 造 5階	15	毛ヶ原(1階)・夜鹿(2階)・町役場(公務員)カモメ館
22号	1953(昭和28)年	R C 造 5階	12	社宅(1階)・寺院(2階・泉福寺)
23号	1921(大正10)年	木造 2階	6	宿泊所(1~2階)・職員社宅
25号	1931(昭和 6)年	R C 造 5階	6	下請従業員住宅
26号	1966(昭和41)年	プレハブ2階	8	下請従業員住宅
30号	1916(大正 5)年	R C 造 7階	140	旧鉱員社宅(下請社宅)
31号	1957(昭和32)年	R C 造 6階	51	地下共同浴場・郵便局(1階)・鉱員社宅
39号	1964(昭和39)年	R C 造 3階	—	公民館
48号	1955(昭和30)年	R C 造 5階	20	鉱員社宅(地階バチンコ店等)
50号	1927(昭和 2)年	鉄骨 2階	—	映画館(昭和館)
51号	1961(昭和36)年	R C 造 8階	40	鉱員社宅
56号	1939(昭和14)年	R C 造 3階	6	職員社宅
57号	1939(昭和14)年	R C 造 4階	8	商店(1階)・職員社宅
59号	1953(昭和28)年	R C 造 5階	17	地下購買会・鉱員社宅
60号	1953(昭和28)年	R C 造 5階	17	共同浴場(地階)・鉱員社宅
61号	1953(昭和28)年	R C 造 5階	17	鉱員社宅
65号(北側)	1945(昭和20)年	R C 造 9階	317	鉱員社宅・端島保育園
65号(南側)	1949(昭和24)年	R C 造 10階	—	鉱員社宅
66号	1958(昭和33)年	R C 造 10階	—	鉱員合宿(昭明寮)
67号	1950(昭和25)年	R C 造 4階	48	鉱員合宿(单身寮)
68号	1958(昭和33)年	R C 造 2階	—	隔離病棟
69号	1958(昭和33)年	R C 造 4階	—	端島病院
70号	1958(昭和33)年	R C 造 7階	—	端島小中学校
71号	1970(昭和45)年	R C 造 2階	—	体育館

\*RC造：鉄筋コンクリート造